

talk! talk! talk! 女優・浅見れいなさん



女優 浅見れいなさん

ファッション雑誌の人気モデルを経て、現在は女優としても活躍中の浅見れいなさん。写真撮影は昔から楽しんできたものの、作品を人前に出すのは照れくさくてできなかったとのこと。最近になって、やっと作品を表に出せるようになったと語る彼女の心境の変化とは？ ブログという新たな表現の場をどのように活かしていくのか、未来への展望を感じさせるお話をうかがいました。

プロフィール

あさみ・れいな。1983年、東京都生まれ。ファッション雑誌「SEVENTEEN」のモデルを経て、1998年4月にはドラマ「サイバー美少女メロテア」（テレビ朝日系）でデビュー。その後、2001年には「フジテレビビジュアルクイーン2001」、2004年には「2004 Luxドリームガール」、2005年には「The Beauty Week Award2005」を受賞。様々なテレビドラマや映画、舞台に出演し、女優としても活躍の場を広げている。主な出演番組に、ドラマ24「せしぶり3」（テレビ東京）、「ヤマトナデシコ七変化♥」（TBS）、「交渉人2」（テレビ朝日）、舞台「パッチギ！」など。現在2010年4月スタートの、「ジェネラル・ルージュの凱旋」（関西テレビ）、「MUSICAL3」（TOKYO MX）の2本のドラマに出演中。出演映画「ばかもの」（金子修介監督）が2010年秋に公開を控える。

Beginning 出会い

デジタルとフィルム、両方の魅力を手にする毎日へ

写真はいつごろから趣味として撮られていたのですか？

明確な時期は思い出せませんが、以前から何人かで旅行に行くようなときは、よく撮っていました。写真撮影が趣味の領域に入ってきたのは、3～4年ぐらい前ですね。その頃仕事で写真を趣味にされている方にお会いして、その影響を受けて私も写真を撮り始めました。その人が撮る写真は、すごく可愛らしいものが多くて、それを見て私も「写真って面白い」と思ったんです。

その頃から、どのようなカメラを使われてきたのですか？

その頃使っていたカメラは、古いフィルムカメラなんですが、今も使っています。実は、古着屋さんに行ったときに偶然見つけたんですよ。おそらく店内のディスプレイとして飾られていたものだと思います。お店の人に、まだシャッターが使えると教えてもらい、すぐに購入させていただきました。それ以来ずっと愛用しています。元々、かなり年季が入っているものなので、たまに突然壊れます（笑）。もうひとつコンパクトデジタルカメラも持っています。これは1～2年ぐらい使っています。

フィルムカメラだけではなく、コンパクトデジタルカメラも使ってみようと思ったきっかけを教えてください。

もちろんフィルムカメラにも独自のよさがありますが、コンパクトデジタルカメラのよさは何といっても気軽に撮影できることです。また、撮った後にパソコンで色々加工できる点も面白いと思います。機種は、カメラを探していた当時まわりの人たちに薦められたものを選びました。

Pleasure 楽しみ

撮る瞬間はもちろん、加工も外せない楽しみ

手軽なコンパクトデジタルカメラを購入された後も、フィルムカメラの愛用も続けていらしゃるということですね。どのような使い分けをされているのですか？

野外など光の量が多いところでは、フィルムカメラでの撮影が多いですね。フィルムカメラは、被写体が光で包まれているような演出ができる点がお気に入りです。ただ、普通のカメラよりもずっしりとしていて重いので.....フィルムカメラの方を選んで持つときは、出かける場所や、被写体が前もって決まっているときですね。コンパクトデジタルカメラは、写真を撮る予定が特になくても、手軽に持ち歩きます。気分によって、どちらを持ち歩くか決めることも多いです。

最近始められたブログを拝見しましたが、携帯電話のカメラで撮られたものなどもたくさんありましたね。

コンパクトデジタルカメラ以外に、携帯電話のカメラも手軽によく使っています。撮影をする瞬間も楽しいですが、私にとっては加工もすっかり趣味のうちに入っています。

どのような加工を楽しまれるのですか？

明度や色調を変えてみたりします。満足できる仕上がりになるまで、何時間でも没頭できるんです。でも手を加えすぎると、せっかくの写真もわざとらしくなってしまうから、加減が難しいんです。加工で仕上がったものを人に見せるために、というよりは、自分の中の達成感を得るために楽しんでますね。

普段はどのような写真を撮られるのですか？

特にこれといったこだわりはなくて（笑）、本当に、気分で写真を撮っていますね。よく撮影するのはみんなでワイワイしている場面ですが、他に風景なども、直感で「撮りたい」と思ったものは何でも撮ります



よ。深く考えたりせずに撮影するので、今まで撮った写真を見返すと、そのときのテンションや写真に対するモチベーションが蘇ってきます。これ (Photo's10) は友達と朝まで飲んで騒いだときに撮った写真です。ビルの上層階から見えた朝焼けが撮れました。

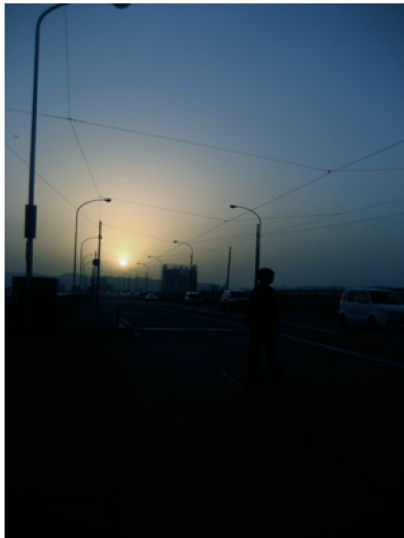
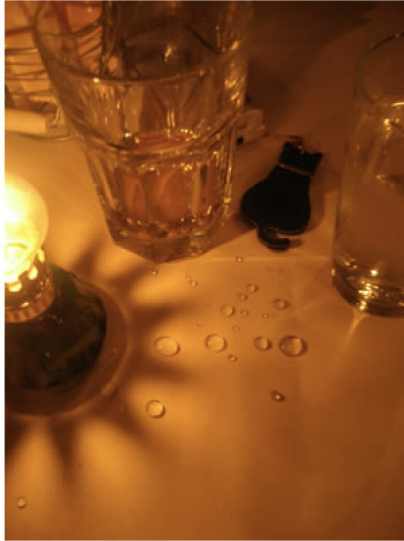
こうして見ると、全体的に昼間の時間帯よりも、暗めの時間帯に撮ったものが多いですね。撮影が難しそうですが.....。

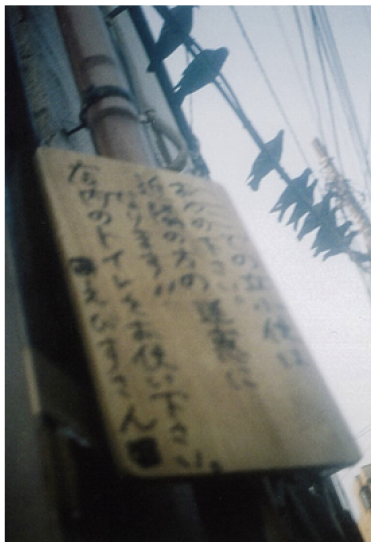
やろうと思えばできるのですが、「ココをこうすると、こうなる」という細かい仕組みは理解しづらいので (笑)、機能の調節に関しては、普段は全く気にしていません。扱い方が分からなくても、とりあえずやってみよう、直感を頼りに操作しています。

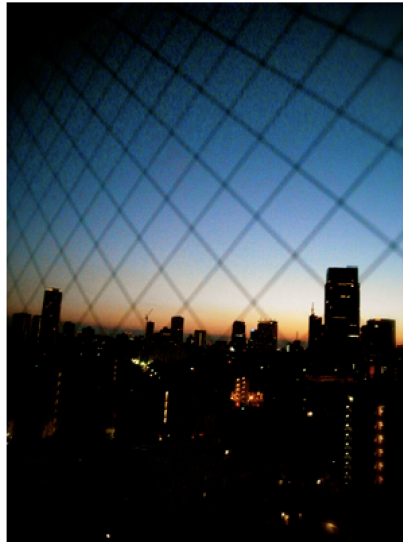
Photo's 作品紹介

その時、その時の感情がリアルに映し出された作品の数々









Future これから

ありのままの心情を、写真に投影させる喜び

今までも、ご自分で撮られた写真は、周囲の方に公開されてきたのですか？

こうして他の方に自分で撮った写真をお見せるのは、実は今回が初めてなんです。写真以外にも、文章や絵を描くことが元々すごく好きで、特に絵に関しては、いつも時間も忘れて没頭してしまいます。ブログを始める前は、写真を含めそれらを誰かに見せることがすごく照れくさかったんです。でも、いつの間にか見せることが気にならなくなっていました。「自分の表現の一部として、そういうものを人に見せてもいいかな」と漠然と考えたときに、マネージャーさんに話してみたら、「やってみたら？」と言ってもらえたんです。「今日は何をした」などこまめに書くことがまだ恥ずかしくて更新が滞ることもあるんですが、写真をはじめ、色々ブログ上で表現させてもらっています。



写真を周囲に公開することが、どうして今までは照れくさかったのですか？

直感で気の向くままに撮られた写真って、個人のそのときの心情が、そのまま映し出されているという意味で、すごく生々しいものだと思うんです。私の写真の場合、そうした心情があまりにもわかりやすいので、それが大勢の人に知られることにためらいを感じていました。

でも、私が好きになった写真家やフォトグラファーの方たちは、そういった個人の内面を映し出すという意味で、すごく生々しい写真を撮るんです。以前は写真の「生々しさ」がもつ力なんて気にも留めなかったのですが、その方々の写真に触れてからは、色々考えさせられましたね。私は言葉で何かを表現するのが得意ではないけれど、写真を見た方が、撮影者である私の内面をそのまま映した写真から何かを投げかけられて、そこから色々な考えが広がっていくことの可能性を感じたんです。

言葉にできない部分を写真に撮る、ということですか？

おそらく、言葉で表現しきれないものについて自分でもはっきりとした認識をもたないうちに撮影しているのだと思います。自分がどんな状態で撮影をしているのかすら、よく分かっていないんです。でも、それを他の人が見たときに、何かしら反応があると面白いですね。ブログではメールやコメントに書き込みをしてくれる方の存在もあり、「この写真、こういう風に見えるんだ」「この写真から、自分はこういう風に捉えられているんだ」と新たに知っていけることが、すごく面白いです。

今までどのようなコメントをいただきましたか？

「こういう写真を撮るイメージがないから意外だ」ってよく言われますね。自分でも、そんな反応にびっくりしているのですが（笑）。でも、写真を通して、思いきって自分の内面を表現できて、そして見てくれる人がいるということは、自分にとってすごくよいことだと思います。反応があることによって、写真の中に込めた言葉にならない気持ちや、相手に認識してもらえたという実感も得られますから。人によって写真に込められた意味の解釈の仕方はバラバラでしょうけど、私はどう捉えてもらってもいいんです。写真以外の掲載物に関しても、何らかの反応が返ってくることでそれ自体が面白いですね。

ブログを通して、その時の気持ちの変化の過程が目で見られるので、見ている方も楽しいですね。それでは、これから写真とどのように向き合っていきたいかを、お聞かせください。

多分、今までもこれからも、写真を撮るときの姿勢はあまり変わらないと思います。このまま色々なものを撮っていききたいですね。常に「コレを撮りたい!」と思って撮っているわけではないし、その瞬間で撮りたいものは変わっていきます。その時の気持ちと連動していくので、すごく流動的です。本当に気分屋なので、カメラを持っていても、それを意識せずに出て、撮らずに一日が終わっていた、なんてこともよくあります。でも、自分の直感だけでシャッターを切り、こだわりや計算をもたないからこそ、そのときの自分の心情をありのまま写真に込めて残せるんじゃないですかね。写真はこれからも生活の中の一部として、欠かせないものであり続けると思います。

浅見さんの撮られる写真がどのように変化していくのか、今後も楽しみです。ありがとうございました!

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.